

## WT1 洗濯乾燥機 設置・施工手順書

### WT1 洗濯乾燥機 WTD 160 WCS

50Hz/60Hz共用



### WT1 洗濯乾燥機 WTR 860 WPM

WTR860 WPMは、50Hz(東日本用)の設定で出荷されています。60Hz地域では、設置時に「設定」-「機器パラメーター」-「周波数」で60Hzを選択してください。



- 本手順書では、人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
- 設置・施工において、本手順書に従わなかったために生じた故障・事故などについては責任を負いかねます。

お客様による設置工事は危険です。建物を傷めたり、ケガのおそれがあります。据付設置は、必ずお買い求めの販売店または指定サービス店にご依頼ください。

### ミーレ・ジャパン株式会社

〒153-0063 東京都目黒区目黒1-24-12オリックス目黒ビル4階  
電話(03)5740-0030 FAX(03)5740-0035

商品の詳細・ご購入は、ミーレオンラインページ  
<http://store.miele.co.jp/>

またはミーレ・カスタマーサービス (通話無料) までお問い合わせください。

ミーレ・カスタマーサービス

固定電話：0120-310-647(フリーダイヤル)

携帯電話：0570-096-300(ナビダイヤル)

■受付時間 月～金 9:00～17:00(土日・祝祭日休業)

# 安全上のご注意

本手順書では、次のマークの箇所で人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある」内容です。



**注意**

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある」内容です。

## 警告



実行しなければならぬ内容です。

- 機器はコンクリートの床面に設置するか、木製フロアの場合はコンクリートスラブに密着している、もしくは根太にて頑丈に補強した床面に設置してください。
- 設置床面は水平・平坦にし、後で本体を手前に引き出せるようにしておいてください。
- 本体の金属部分が、家屋の金属板や流し台のステンレス板に電氣的に接触しないようにしてください。漏電した場合、火災の原因になります。(法令:電気設備の技術基準第167条・平成13年)
- コンセント、止水栓、排水管は設置後にユーザーが容易にアクセスできる位置に設けてください。
- 電源工事や接地工事は電気設備技術基準に準じて行ってください。本手順書の「電気工事」の項を参照してください。
- 電源は、単相200V 専用コンセント アース付の専用回路を用意し、D種接地工事を必ず行ってください。
- 万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電しゃ断器を必ず取り付けてください。(法令で規定)
- 給・排水工事はすべて水道法、建築基準法、および貴都市の条例、規定に準じて行ってください。
- 水道水圧:作動水圧が0.1MPa~1MPaの範囲であることを確認してください。
- 止水栓は吐水口が下向きになるように設けてください。
- 排水管は耐熱塩ビ管HTを使用してください(HT40相当)。本製品はポンプによる強制排水方式(揚程1m)のため、排水管はFLから200mm以上立ち上げてください。



してはならない内容です。

- 本製品は家庭用機器です。業務用には使用しないでください。
- 木造住宅の2階以上には設置しないでください。振動音が大きくなる要因になります。
- 電源コードを切断、および直結することは絶対にしないでください。電源コンセントはそれぞれの機器に単独で、専用に設けてください。
- 本製品は寒冷地仕様ではありません。凍結の恐れがある場所(室温0℃以下)には設置しないでください。
- 給湯器などによる温水接続はしないでください。
- 水場や浴室など、湿気の多い場所に設置しないでください。(感電・火災のおそれ)
- 直射日光が当たる場所、窓や換気扇のない場所に設置しないでください。

# 設置パターン

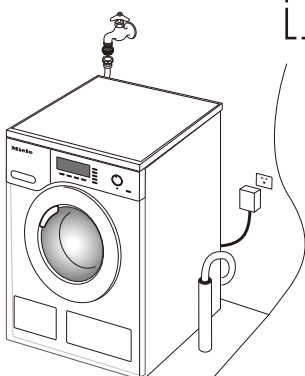


- 本製品は「消防法 告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等離隔距離に関する基準)」に適合しております。建築物の可燃物等からの距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。

消防法 基準適合 組込形			
可燃物からの離隔距離(mm)			
上方	側方	前方	後方
0	0	(開放)	0

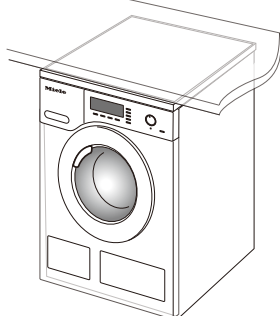
- 本製品は、単独置きまたはカウンター下(スロットイン・ビルトイン)への設置が可能です。

### ■ 単独置き

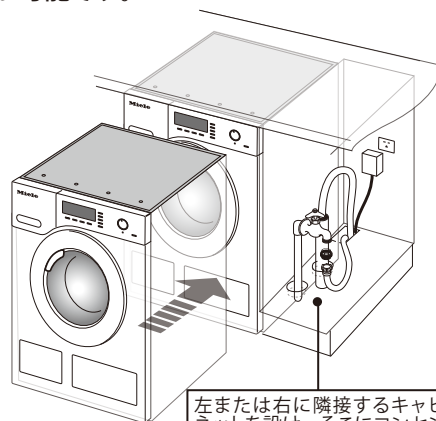


### ■ カウンター下への設置

**スロットイン:**  
機器の天板を装着したまま、カウンター下に押し込むことができます。



**ビルトイン:**  
機器の天板を外してビルトインカバー(別売 UBS W1/G)を取り付けることで、最小限のスペースにぴったりと組み込むことができます。



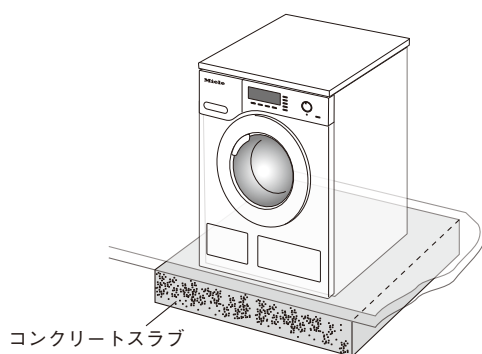
左または右に隣接するキャビネットを設け、そこにコンセントや給排水を設けます。

# 設置床面の確認/床の補強

必ず事前に床面の強度を確認し、しっかりとした水平な床に設置してください。

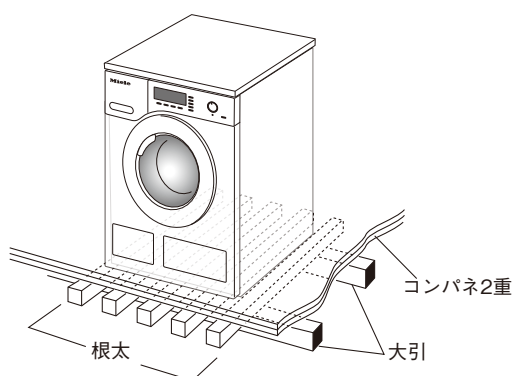
■コンクリートの床面の場合、下記の補強は不要です。

## ■床下のコンクリート補強



洗濯機を設置する床は、床下が直接コンクリートスラブに密着しているか確認してください。ユニットフロアなど、床下に空間がある場合は、設置する部分をコンクリートによって補強してください。

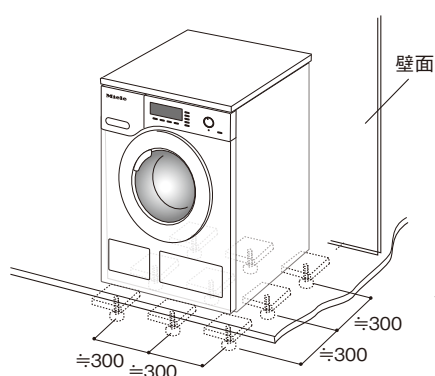
## ■木造床下を補強する場合



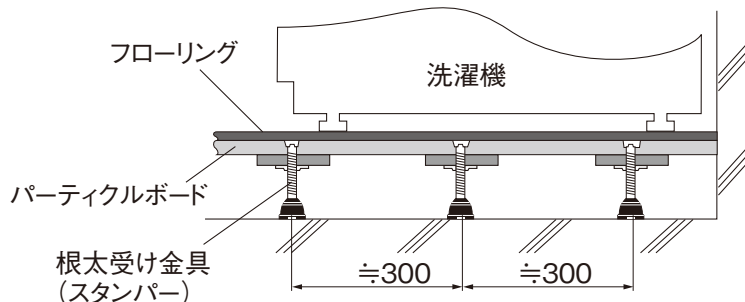
直接コンクリートで補強するのが困難な場合、左図のように根太5～6本+コンパネ2重張で補強してください。この時、本体の脚真下に根太がくるようにしてください。

※補強しても、木造住宅の2階以上には設置しないでください。

## ■置床の場合



マンションなどの置床の場合、機器を設置する床下を、根太受け金具 (フリースタンパー) 9本で補強します。金具の取り付け位置は、概ね下図を参考にしてください。



※いずれの床の場合も、水準器で水平をご確認ください。

※いずれの床の場合も、水準器で水平をご確認ください。

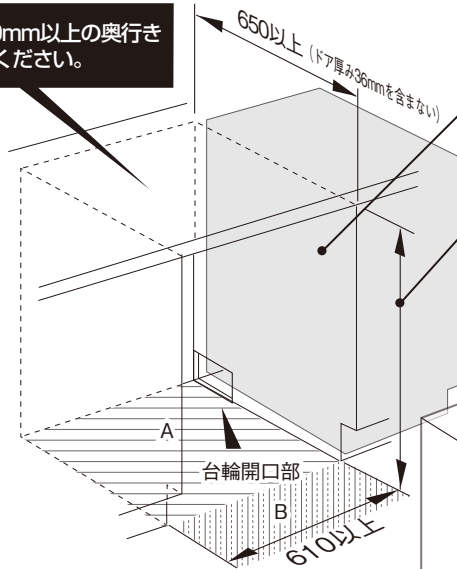
※本体の下をカーペットなどでふさがらないでください。

※本体の周りに糸くずやホコリなどが蓄積しないようにしてください。

# キャビネットの加工

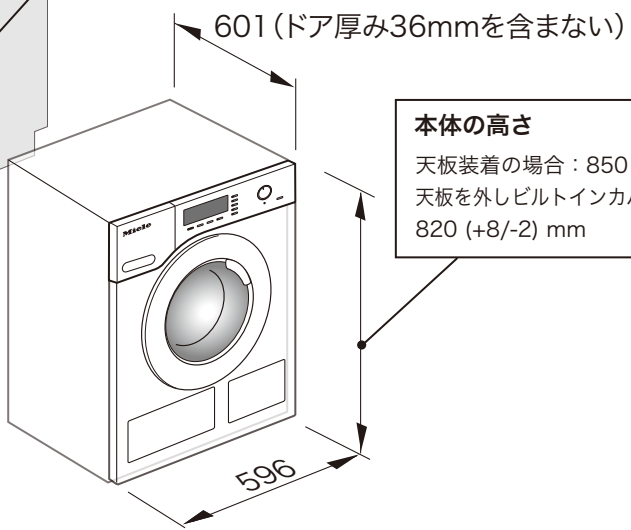
- カウンター下への設置の場合、右または左にキャビネットを設けて、そこにコンセント、給排水設備を収納してください。

必ず650mm以上の奥行きを設けてください。



**キャビネットの内寸：**  
幅200mm以上、高さ600mm以上、奥行き500mm以上

**床面からカウンター底面までの高さ：**  
スロットイン（天板装着）の場合：850mm以上  
ビルトイン（天板を外しビルトインカバー取付）の場合：820mm以上

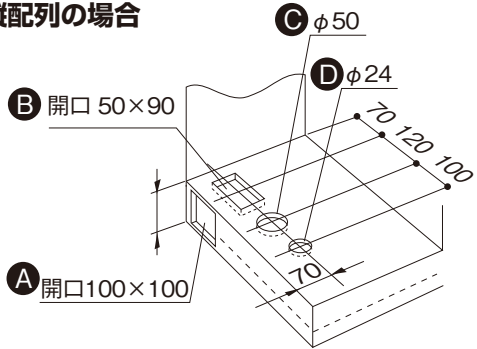


**本体の高さ**  
天板装着の場合：850 (+8/-2) mm  
天板を外しビルトインカバー取付の場合：820 (+8/-2) mm

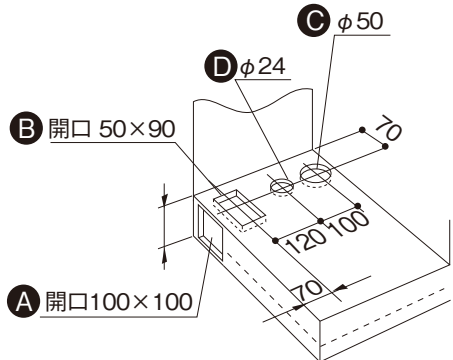
- メンテナンスなどで機器を前に引き出せるよう設置床面Aと機器前床面Bは同レベルに仕上げてください。

## 隣接キャビネットの加工例

### 縦配列の場合



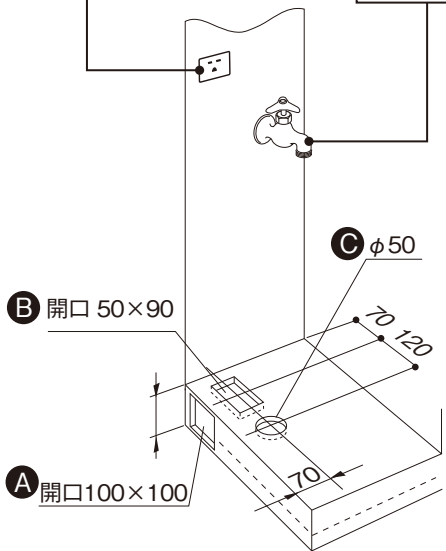
### 横配列の場合



- A 給・排水ホース・電源コード通し穴(台輪)
- B 給・排水ホース・電源コード通し穴(底板)
- C 排水管通し穴
- D 給水管通し穴

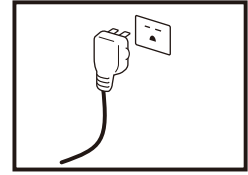
### 止水栓をキャビネット奥の壁面に設ける場合

- **コンセント**  
止水栓の吐水口より高い位置にあること
- **止水栓**  
・ユーザーが容易に操作できること  
・コンセントより下で、かつ給水ホースが最低200mmは真すぐに下がるスペースがあること



# 電気工事

- 電気工事、アース工事は、すべて電気工事士の有資格者が、電気設備の技術基準に準じて行ってください。
- コードが下向きに取り付けられるよう、図の向きでコンセントを用意してください。



## ■ブレーカー付单相200V・15A専用回路(アース付)

**露出型** パナソニック WK3012(露出型) 相当品

**埋込型** パナソニック WN112K(埋込型) 相当品

※D種接地工事を必ず行ってください。

### ■漏電しゃ断器について



万一の漏電事故時の安全確保のために、漏電しゃ断器の設置が必要です。

※主幹に漏電しゃ断器が設けられている場合には、新たに漏電しゃ断器を設置する必要はありません。

### 推奨品

住宅分電盤用小型漏電ブレーカー

定格電流は15A・感度電流30mA(AC100-200V両用)

※既設分電盤の分岐安全ブレーカーHB型と同一サイズなので、そのまま取り替えることができます。

- 本製品を設置した後も、ユーザーが電源プラグに簡単にアクセスできる状態にしてください。
- コンセントは、水滴がかかるおそれのある場所を避けてください。止水栓が近くにある場合、止水栓の吐水口より高い位置に設けてください。
- 本製品をマルチソケットや延長コードに接続すると、コードに負荷がかかり過ぎる恐れがあります。安全上の理由から、延長コードやマルチソケットを使用しないでください。
- 自動的に電源が切れるタイマーなどの装置に本製品を接続しないでください。

# 水道工事

## ■給水圧



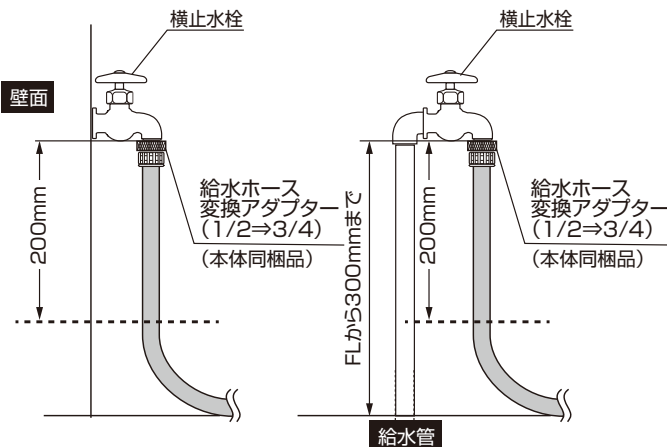
0.1MPa~1.0MPaの範囲内である必要があります。水圧が1MPaを超える場合は、減圧弁を設置する必要があります。

## ■止水栓

- 前述の「キャビネットの加工」を参考に、壁面に取り付けるか、床面からの給水管に取り付けてください。
- ユーザーが容易に操作できる位置に設けてください。
- 止水栓から給水ホースが最低200mmは真っすぐ下がるようにしてください。止水栓から200mm未満の位置で給水ホースが曲がると給水不良の原因となる場合があります。
- 吐出口は下向き、呼び径1/2または3/4平行おねじを用意してください。  
※呼び径3/4の場合は、給水ホース変換アダプター(本体同梱品)を使用せず直接接続してください。

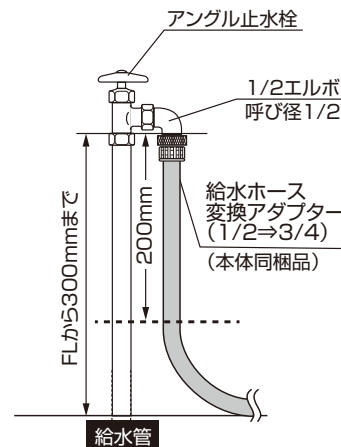
### 横止水栓

1/2カップリング付横止水栓(カクダイ 7030-13/三栄水栓製作所 JY30J13相当)  
※接続の際、カップリングは取り外します。



### アングル止水栓

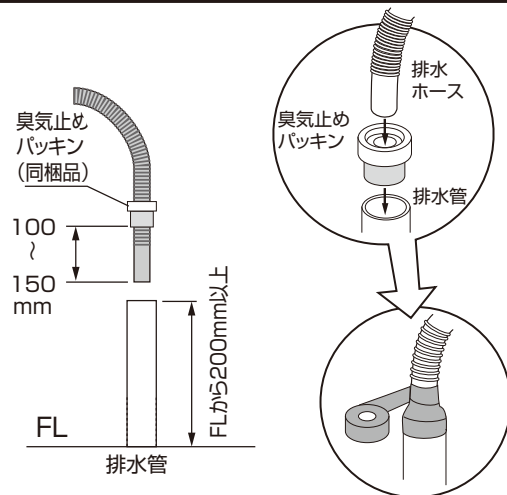
1/2アングル止水栓(TOTO THY226U相当)  
※接続の際、呼び径1/2の平行おねじエルボを使用します。(リビラック G1/2NFL13相当、又はミーレ品番97250218)





## ■排水管

- 前述の「キャビネットの加工」を参考に、床面から耐熱塩ビ40φ (HT40相当)の排水管を用意してください。
- 本製品はポンプによる強制排水方式 (揚程1m) のため、FLから200mm以上立ち上げてください。
- ※ 排水管には、機器設置時に右図のように臭気止めパッキンを使って排水ホースを接続します。

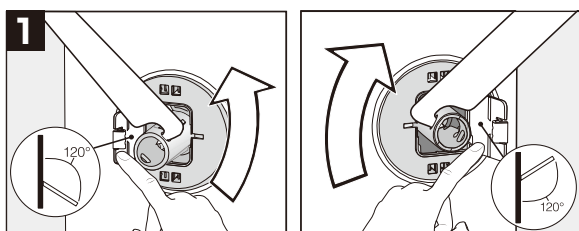


## 設置場所への運搬

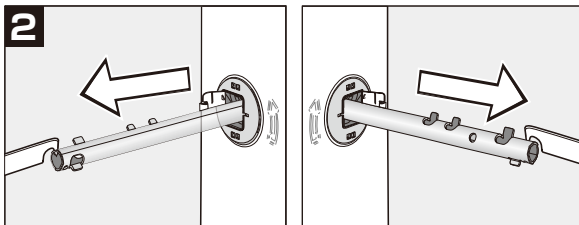
- 機器を運搬する前に、機器背面のリッド(天板突出部)が固定されていることを確認してください。固定されていないと、リッドが外れてけがや物的損害につながるおそれがあります。
- 前脚と、機器後部のリッド(天板突出部)を持って運搬します。

## 輸送用ボルトの取り外し

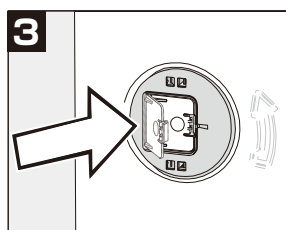
- 本製品は輸送・運搬のために洗浄ドラムを固定してあります。設置前に必ず、この輸送用固定ボルト 2カ所 を取り外してください。
- ⚠ **ボルトを外さずに機器を稼働させると、本体が動くことがあり危険です。また故障の原因になります。**
- 輸送用固定部品なしで本体を運搬しないでください。ボルトを外して移動させた場合、ドラム損傷の要因となります。



カバーを開き、付属のオープンスパナを使用して、輸送用ボルトを90°回します。  
右:時計方向  
左:反時計方向



スパナのカギ部分を使って輸送用ボルトを引き出します。



カバーが所定の位置にはまるまでしっかりと押し込みます。  
※カバーがはめ込まれていないと、端面などでけがをするおそれがあります。  
※輸送用ボルトは転居などの際に必要となります。大切に保管してください。再度取り付ける手順は、取扱説明書の「設置」の章を参照ください。

# 水平の確認(異常振動を防ぐために)

- 本体の水平がとれていない場合、脱水時の振動や異音、がたつきの原因になります。
- カウンター下への設置の場合、カウンター下に押し込む前に水平の確認をしてください。



● 本体4箇所のアジャスタ脚で高さを調整し、水準器で床の水平レベルと、本体が傾いていないかを再度確認してください。

● 調整後、必ずロックナットを本体に締め付けてください。



ロックナットを締め付けないと、振動の原因となります。

● カウンター下に本体を押し込んだ後も、水準器で床の水平レベルと、本体が傾いていないかを再度確認してください。

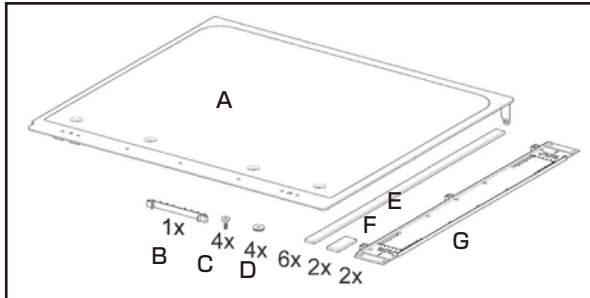
# ビルトインカバーの取り付け

ビルトイン設置  
パターンのみ

## ビルトインカバー UBS W1/G(別売)

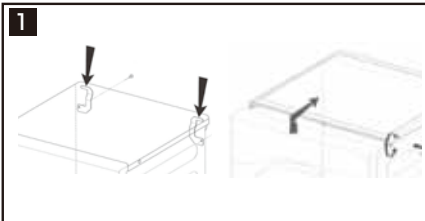
本製品を設置する場合は、必ず機器の天板を取り外し、上面にビルトインカバーを取り付けてから実施してください。

### 準備する工具

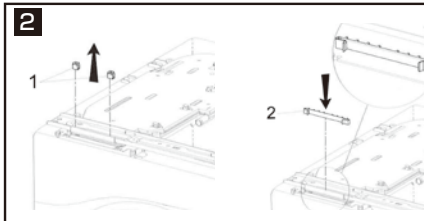


- A ビルトインカバー
- B アダプター
- C 固定ビス (前)
- D 防振ワッシャー
- E 防振シール (長)
- F 防振シール (短)
- G スライダー※

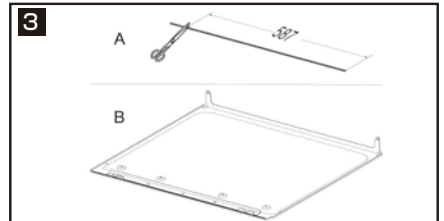
※ 機器の設置状況に応じ機器の下に敷いて使用して下さい。



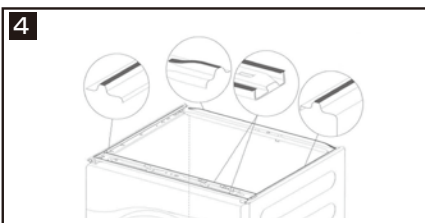
1 本体後部の天板固定金具左右2箇所を取り外します。(ビスは後でビルトインカバーを固定する際に使用します。)天板両サイドの目隠しキャップに穴を開け、ビスを緩め押し込んで、天板を外して下さい。



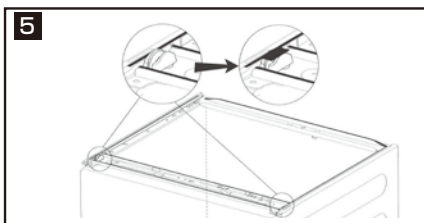
2 洗剤コンテナ上部にあるホルダーを取り外して、アダプターを取り付け下さい



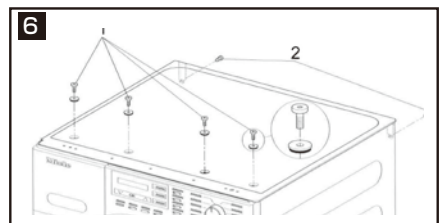
3 長い防振シールをカットし、ビルトインカバー前部に貼り付けます。



4 本体の図の位置に防振シールを貼り付けます。



5 短い防振シールを本体左右2箇所のドラムサスペンションスプリングホルダーに貼り付けます。



6 天板の、前方4カ所を固定ビスで、後部2カ所を取り外した固定金具のビスで固定します。

# 給排水と電源の接続

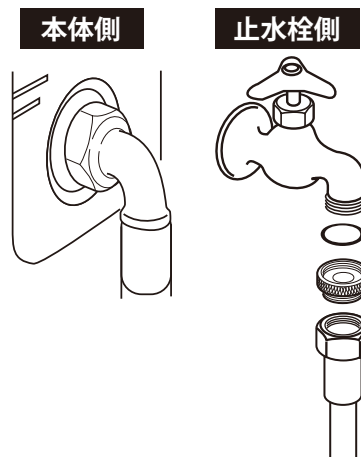
- 前述の「電気工事」「水道工事」に従って準備した止水栓・排水管・コンセントに、給水ホース・排水ホース・電源コードを接続します。
- キャビネット内に設置する場合は、キャビネットに本体を押し込む前にすべての接続を行ってください。

## ■ 給水ホースの接続

- 本体と給水ホースの接続にゆるみがないことを確認してください。
- 給水ホースを止水栓に接続します。吐水口が1/2おねじの場合、同梱の給水ホースアダプター(1/2→3/4)を使用します。3/4おねじの場合はアダプター不要です。



吐水口が下向きであることを確認してください。横向きの場合、呼び径1/2の平行おねじエルボ(同梱されていません)を使用してください(「水道工事」参照)。



## ■ 排水ホースとの接続

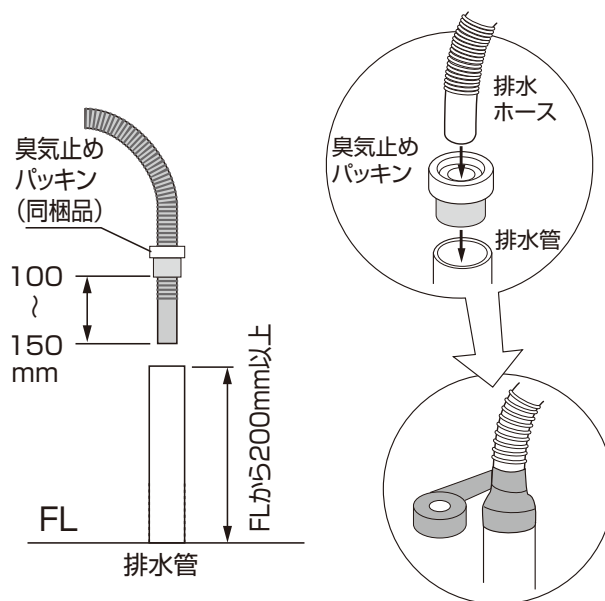


排水ホースは絶対に切らないでください。

- 排水管に臭気止めパッキン(同梱)を差し込みます。
- 排水ホースを100~150mmの深さまで差し込みます(差し込みすぎに注意)。中性洗剤を塗ると差し込みやすくなります。
- 排水ホースを防食テープで固定します。



排水管からの臭気の立ち込みや、排水ホースの抜けによる水漏れを防止するため、臭気止めパッキンと防食テープでしっかり隙間を塞ぎ固定してください。



## ■ 電源の接続

- 電源コードをコンセントに差し込みます。



※WTR860は、このあとの試運転の際に、「設定」-「機器パラメータ」-「周波数」で周波数50Hz(東日本側)または60Hz(西日本側)を選択する必要があります。出荷時は50Hzに設定されています。



# 試運転



- 下記の手順で試運転までを行い、水漏れや振動、異常音がないこと、正常に排水することを確認してください。
- WTR860 WPMは、出荷時に周波数50Hz(東日本用)に設定されています。60Hz地域(西日本側)に設置する場合は、「設定」-「機器パラメーター」-「周波数」60Hzに設定してください。
- 詳しくは、取扱説明書の「初めてお使いになる前に」の手順に従ってください。

WTD160 WCS	WTR860 WPM
保護フィルムとステッカーを取り外す	保護フィルムとステッカーを取り外す
排水ホースエルボをドラムから取り出す	洗剤カートリッジと排水ホースエルボをドラムから取り外す
Miele@homeのセットアップ (後でも可能)	
<p>試運転の実行</p> <p>※必ず輸送用ボルトを取り外してから行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 止水栓を開く</li> <li>2. プログラムセレクターをCottons(コットン)に回す</li> <li>3. Start/Add laundryにタッチ</li> <li>4. プログラム(しわ防止プロセスも)の終了後、Start/Add laundryが点滅したら、プログラムセレクターを  の位置に回すとドアがロック解除</li> <li>5. ドアを開く</li> </ol> <p>(試運転の終了)</p>	<p>表示言語の設定</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表示言語の設定</li> <li>2. Miele@homeのセットアップ(「スキップ」可能)</li> <li>3. 表示時刻の設定</li> <li>4. 輸送用ボルトの取り外し</li> <li>5. TwinDosのセットアップ(「スキップ」可能)。日本の軟水に合わせ、UltraPhase 1 = 18ml、UltraPhase 2 = 15mlに設定済</li> </ol> <p>※周波数の設定:「設定」メニュー「機器パラメーター」-「周波数」で、お住まいの地域に合わせて50Hz(東日本側)または60Hz(西日本側)を選択してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 試運転を、画面の指示に従って行う(約2時間)。</li> <li>7. 「i 試運転終了」と表示されたら、ドアを開く。  ボタンで電源を切る</li> </ol> <p>(試運転の終了)</p>